

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：国際収支（2006年5月）

発表日：2006年7月13日（木）

～貿易黒字の増加により、経常収支は前年比+15.9%とプラス転化～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 徳永香奈

TEL: 03-5221-4549(DI)

E.mail: tokunaga@dri.dai-ichi-life.co.jp

| | | 原数値 経常収支 | | | | 季調値 経常収支 | | | | |
|----|---------|-------------|--------|--------|--------|-------------|--------|--------|--------|--------|
| | | 貿易・サービス収支 | | 所得収支 | | 貿易・サービス収支 | | 所得収支 | | |
| | | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前期比 | 前期比 | 前期比 | 前期比 | |
| 04 | 1-3月期 | 43.2 | 82.9 | 42.3 | 9.9 | 11.8 | 14.5 | 7.3 | 5.1 | |
| | 4-6月期 | 20.3 | 25.3 | 32.8 | 13.1 | ▲ 2.2 | ▲ 8.8 | ▲ 3.6 | 8.2 | |
| | 7-9月期 | 6.7 | 10.7 | 10.5 | 3.7 | ▲ 0.4 | ▲ 0.1 | ▲ 4.2 | 0.6 | |
| | 10-12月期 | 6.4 | ▲ 7.2 | ▲ 9.3 | 25.6 | ▲ 3.3 | ▲ 12.8 | ▲ 10.4 | 7.3 | |
| 05 | 1-3月期 | ▲ 8.1 | ▲ 23.0 | ▲ 21.4 | 14.5 | ▲ 1.0 | 4.4 | 2.8 | ▲ 1.6 | |
| | 4-6月期 | ▲ 9.8 | ▲ 30.4 | ▲ 29.7 | 18.4 | ▲ 5.4 | ▲ 30.3 | ▲ 24.7 | 14.3 | |
| | 7-9月期 | ▲ 1.5 | ▲ 35.2 | ▲ 31.7 | 28.5 | 4.4 | ▲ 2.8 | ▲ 6.1 | 4.9 | |
| | 10-12月期 | 13.6 | ▲ 8.2 | ▲ 18.6 | 30.1 | 20.8 | 30.7 | 10.0 | 12.7 | |
| 06 | 1-3月期 | 14.2 | ▲ 22.1 | ▲ 27.3 | 40.4 | ▲ 4.1 | ▲ 9.4 | ▲ 6.1 | 7.2 | |
| 05 | 5月 | ▲ 18.6 | ▲ 63.5 | ▲ 60.8 | 27.6 | 2.8 | 13.2 | ▲ 2.6 | ▲ 3.2 | |
| | 6月 | ▲ 14.6 | ▲ 22.4 | ▲ 24.4 | 3.5 | 5.5 | 8.2 | 10.5 | 2.2 | |
| | 7月 | 3.2 | ▲ 20.2 | ▲ 21.8 | 24.2 | ▲ 4.7 | ▲ 16.0 | ▲ 13.2 | 1.3 | |
| | 8月 | ▲ 16.1 | ▲ 93.3 | ▲ 69.4 | 28.1 | 4.5 | 11.1 | 3.4 | 1.4 | |
| | 9月 | 6.1 | ▲ 19.3 | ▲ 20.8 | 33.7 | 5.1 | ▲ 4.5 | ▲ 0.5 | 7.1 | |
| | 10月 | 7.3 | ▲ 20.8 | ▲ 29.7 | 45.7 | 12.8 | 33.5 | 1.0 | 5.9 | |
| | 11月 | 17.3 | 16.7 | ▲ 0.8 | 11.4 | ▲ 9.2 | ▲ 10.9 | 11.0 | ▲ 11.1 | |
| | 12月 | 16.1 | ▲ 9.9 | ▲ 16.8 | 39.6 | 27.6 | 16.4 | 2.1 | 29.1 | |
| | 06 | 1月 | ▲ 7.5 | 赤字 | 赤字 | 33.6 | ▲ 18.5 | ▲ 13.9 | ▲ 20.8 | ▲ 10.6 |
| | | 2月 | 6.2 | ▲ 13.1 | ▲ 10.9 | 29.7 | 6.6 | 8.3 | 28.8 | 3.6 |
| | | 3月 | 32.8 | 3.8 | ▲ 6.0 | 56.9 | ▲ 1.7 | ▲ 18.0 | ▲ 14.3 | 9.6 |
| | | 4月 | ▲ 20.2 | ▲ 65.0 | ▲ 33.9 | 12.8 | ▲ 34.0 | ▲ 75.9 | ▲ 37.6 | ▲ 15.3 |
| 5月 | | 15.9 | 25.2 | 6.9 | 15.7 | 39.1 | 427.4 | 87.6 | ▲ 10.8 | |

(出所) 財務省「国際収支状況」

○ 貿易黒字の増加により、経常収支は前年比+15.9%とプラス転化

5月の経常黒字額は前年比+15.9%の16,139億円（原数値）と2ヶ月ぶりに前年比プラスに転じ、ほぼ事前の市場コンセンサス通り（16,210億円、前年比+18.4%）の結果となった。内訳をみると、貿易黒字が前年比+6.9%と19ヶ月ぶりに増加したことに加え、所得収支も同+15.7%と引き続き増加した。今月の経常黒字の増加に最も寄与したのは貿易黒字の増加である。貿易黒字は、輸入金額が原油価格の高騰が続いていることから引き続き拡大傾向にあるものの、4月に比べて5月の為替レートが円高方向に進んだことが押し下げに寄与したことや、輸出が米国、アジア、欧州向けともに好調であったことから、黒字幅が拡大した。

所得収支は、①証券投資収益が対外資産の累増を背景とした外国債券の受取利子が増大していることから安定的な増加基調を辿っていることに加え、②直接投資収益についても海外子会社の業績が好調であることを反映して堅調に推移しているため拡大傾向が続いており、今月も全体の押し上げに寄与した。

サービス収支については、輸送及び旅行の赤字幅が縮小したことや、その他サービスの黒字幅が拡大した

ことから、全体として2ヶ月ぶりに赤字幅が縮小した。その他サービス収支については、三国間貿易の拡大や海外子会社の業績好調を背景として、特許使用料や仲介貿易・その他貿易関連サービスの受取りが増加基調を辿っている。

○ 貿易収支が19ヶ月ぶりにプラス転化

今月特徴的であったのは、貿易黒字が前年比+6.9%と19ヶ月ぶりにプラスに転じたことである。貿易収支については、このところ原油価格高騰による輸入金額の押し上げによって黒字幅を大きく縮小させてきたが、今月は輸出の好調さがそれを上回った。

輸出は、アジア、米国、欧州と主要地域全てで伸び率を拡大させており、特に米国向けの自動車輸出が際立って好調であった。原油価格高騰によってガソリン価格が高止まりするなか、低燃費で高品質な日本車の需要は高く、引き続き同分野の輸出は堅調に推移しよう。米国経済は今後減速していく公算が大きいことから2006年半ば以降は輸出の増加ペースが鈍化する可能性があるが、減速は小幅なものにとどまる見込みであり、底堅い海外需要を背景にして、輸出は当面堅調に推移するであろう。

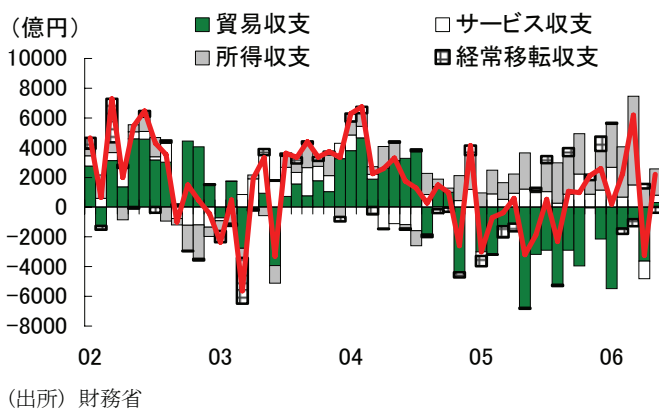
輸入については、雇用・所得環境の改善に伴う個人消費の回復や期待成長率の上昇を背景とした設備投資の増加などの国内需要の回復によって、先行きも増加傾向を辿ると考えられる。もっとも、輸入の伸びは原油価格の動向による影響が大きいことから、原油価格のさらなる上昇がなければ価格面からの押し上げ寄与は徐々に減弱してくると思われる。

経常収支は、拡大を続ける所得収支の黒字が、やや軟調となっている貿易収支を下支えすることによって高水準で安定的に推移すると見込まれる。

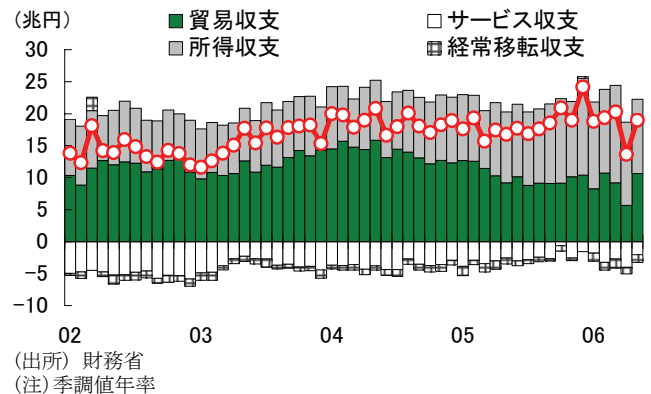
○ 4-6月期の外需寄与度は横這いか

5月の国際収支までの結果を踏まえて、財、サービスの輸出入額をSNAとほぼ同じ方法で計算してみたところ、4-6月期の外需寄与度は横這い圏内での推移となる見込みである。6月の貿易統計の結果を加味する必要があるが、外需の寄与度は前期に引き続きほぼ横這いとなる可能性が高い。

図表1 経常収支・前年差

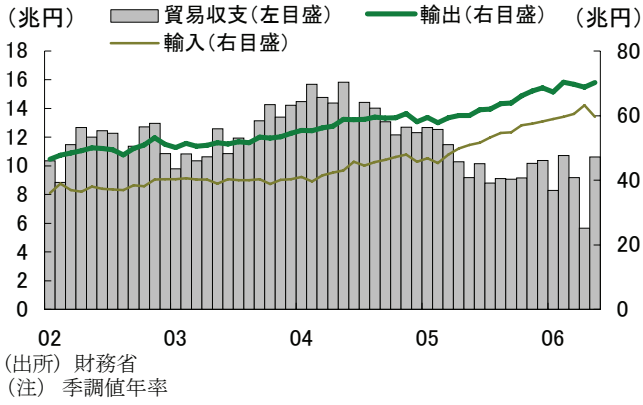


図表2 経常収支（季調値）

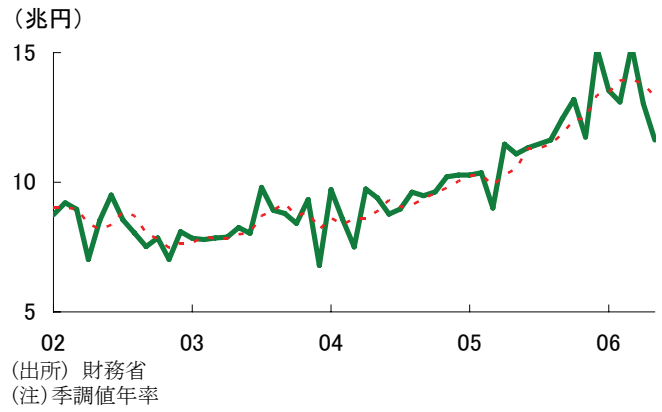


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

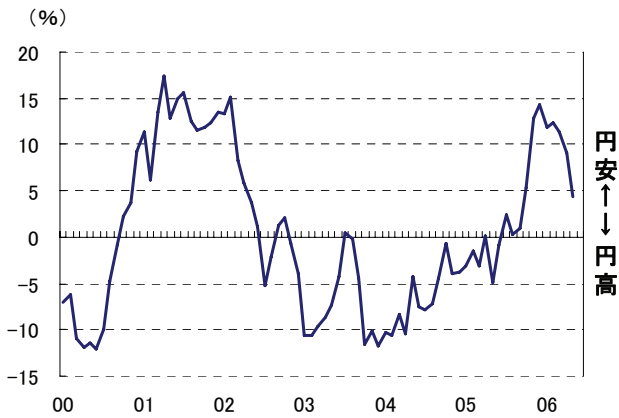
図表3 貿易収支



図表4 所得収支



図表5 為替レートの推移 (円ドル・前年比)



図表6 原油価格の推移 (C I F 価格・前年比)



以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。